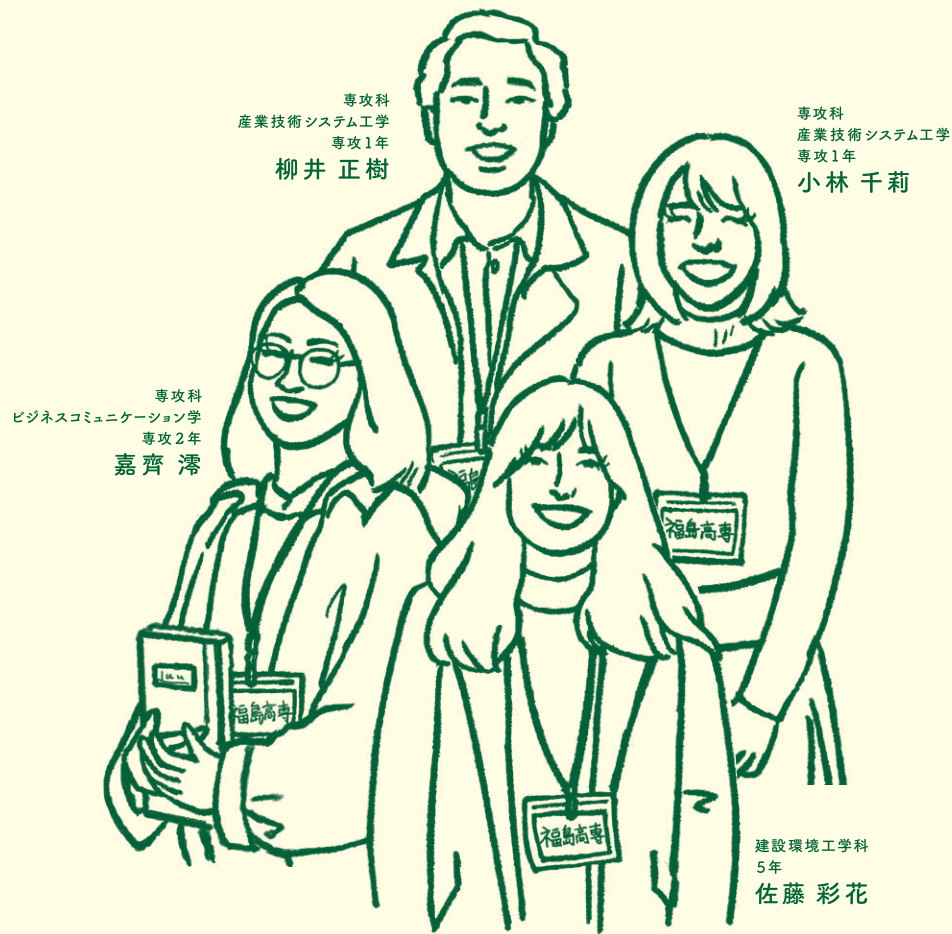




私たちは「知ること」から始めました。

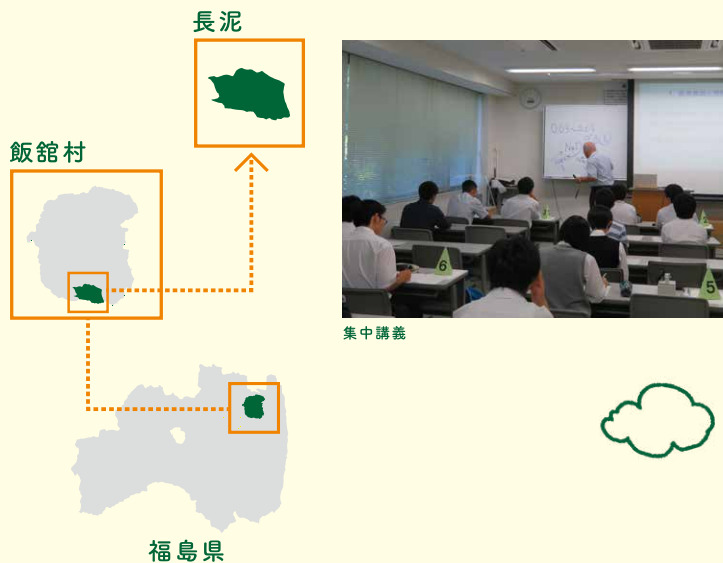
福島工業高等専門学校では、学生のみなさんが除去土壌の再生利用に関する研究に取り組んでいます。それに込めた思いを4名の方に伺いました。全員が福島県出身。  
根底には震災で傷ついた福島の復興に関わりたいという願いがありました。



# 「までいの村」から。

「までい」は、「手間暇惜まず」「丁寧に」「心を込めて」という飯館の方言です。

「集中講義や長泥地区でのフィールドワーク、共同教育などを通して放射線のこと、除去土壌の現状などを学びました。そこで得たものはまず『知ること』の大切さです。さらに交流や議論を経験することで考えを深めることができました」  
また「『知ってもらおう』努力は自分たち若者の責務だと思っています」とも。  
「これは自分たちの未来の問題でもある」と語ってくれました。



福島工業高等専門学校

飯館村での再生利用実証事業を見学しました。

令和元年9月に福島高専の学生のみなさんが飯館村を訪れ、栽培されている植物の現状などを確認しました。目的は現地に赴いて「知ること」。この活動は今後も継続していくことになっています。



飯館村役場における共同教育



飯館村・環境再生事業の見学

環境省は飯館村の長泥地区において、除去土壌の再生に関する安全性や作物の育成の確認を通して、将来の農業の再生を図るための実証事業を行なっています。

「いいたて便り」全4回を通して、環境再生に向けた進捗状況などについてご報告いたします。